

特別講演3

富良野＝ラベンダーのルーツについて＝

岩崎 寛

社会医療法人 札幌禎心会病院 (旭川医科大学名誉教授)

麻酔科

北海道の夏観光の一つとして注目されているのが富良野地区のラベンダーである。しかし、フランスのプロバンス地方が主産地とされるラベンダーがどのようにして富良野地区に作付けされたのかについては以外と知られていない。私の生まれ故郷は上富良野町で富良野盆地のほぼ中央に位置し、雨が少なく夏が暑く、冬が寒い典型的な大陸性気候でラベンダーの生育に適した気候です。1937年曾田香料(株)の創始者曾田政治氏がフランスから種を持ち帰ったのが日本における栽培の始まりとされています。第二次世界大戦後1947年に私の父が農業朝日という雑誌の記事に「香料作物ラベンダーは初夏の傾斜地にうすむらさきの花を開き、なかなか詩情に富んでいる作物」に興味を持ち曾田香料社と委託契約をしたのが始まりとされています。つまり私の父が主導して上富良野にて蒸留設備を整備してラベンダーからの香料抽出が開始されたとのことでした。私は富良野高校を卒業後札幌医科大学に進学し、1998年から旭川医科大学の麻酔蘇生学講座の教授として仕事をしてきました。現在は定年退職後札幌の病院にて臨床医療をしています。故郷富良野地区への愛着は強く、その後の富良野地区のラベンダーについての栄枯盛衰の経緯について解説させていただきます。